

〈解答〉

① 1 イ

2 オ

3 エ

4 A

〔例〕 振り返る

B

〔例〕 消えない

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

①

1 傍線①の三行前に「とにかく先生に対して腹が立ってしかたなかった」とあり、それが理由で「白井先生のことを徹底して悪しざまに言わずにはいられなかった」ことがわかるので、あとは、先生のどのようところに「私」が腹を立てているのかを考える。傍線①の二行前に「マティスは松崎のほうが自分より才能があるのをひがんで、わざと絵をめちやくちやにして入賞できないようにした」という内容が述べられているほか、傍線①の後も「自分に才能がないのは勝手じゃけど、生徒の才能をつぶして、どないするんじゃ」とあるので、生徒の才能をつぶす（＝うまく引き出してやれない）先生がいることに対して、「私」が腹を立てているのだと推察できる。

2 空欄②の直後にある「うつむいて、それでも謝るつもりはなかった」という表現から、白井先生の悪口を本人に直接聞かれていたことがわかり、気まずい思いとなったが、それでも謝ろうとしなかった、という文章の流れであることがわかる。よって、気まずい思いをしていることがわかる表現を選ん入れる。オ「肩をすくめ（肩をすくめる）」は「恥ずかしい思いをしたときなどに身を縮こまらせること」という意味で、「気まずい思い」を表現している。ちなみに、ウ「びくつ」として背中を向け」については、「びくつ」としての部分に問題はないが、「背中を向け」が場面の設定上ありえないので、正解とはならない。

3 傍線③の二行前に「私はまだ幼かった」とあるが、「私」は、確たる証拠もないのに、ただその時の感情に任せて白井先生の悪口を言いまわっていた中学生時代の自分を「幼かった」と、自戒を込めて述べているのである。よって、「かつての自分の未熟さを恥ずかしく思っている」とあるエを導き出す。

4 本文の終わりから三～五行目にある「先生の後ろ姿がどうだったのかは思いだせない。私の訊いたことへの答えが背中にあったのかどうかも、わからない……いまならどうだろう。わかるだろうか。わからないままだろうか」という部分からは、昔の自分を振り返り、客観的な視点から見つめ直すとする「私」の思いが読み取れ、その時のことが「現在」もどげのように「私」の胸に刺さっているのだとわかる。